

平成28年度第2回下関市公立大学法人評価委員会議事【要旨】

平成28年7月19日(火) 14:00~16:00

下関市立大学本館 棟 5階 大会議室

下関市公立大学法人評価委員会：野口委員長、江里委員、中野委員、藤上委員、佐藤委員、事務局

公立大学法人下関市立大学：荻野理事長、川波学長、中嶋学部長、佐々木事務局長、法人事務局

1. 開会のことば

2. 議題

事務局 ~事務局説明~

(1) 平成27年度法人の業務実績に係る評価について

大項目 地域貢献に関する目標

- 中項目1 地域との共創関係の構築に関する目標
- 中項目2 産官学連携の推進に関する目標

=ヒアリング(前回の続き)=

委員	<p>項目番号 32-1 (初等・中等教育との連携の推進)</p> <p>学生ボランティア支援員とは、具体的にどのようなことをするのか。</p>
事務局長	<p>障害のある子どもが参加する授業で、板書の読み上げなどのサポートが中心。教員志望の学生の参加が多い。</p>
委員	<p>項目番号 33-1 (大学施設の開放)</p> <p>施設の貸出に係る収入については、順調に推移しているが、このあたりが満杯の状況なのか、又は大学として程よい使用状況といったところなのか。</p>
事務局長	<p>外部の予約が入っていて、学生が施設を使用できないという苦情もあり、また学生数も入学者数が多い状態で、現在、施設の貸出、減免の見直しをしている。外部の使用を制限するという点では、収入減となるが、同時に TOEIC 試験会場としての使用など、従前減免してきた部分について減免措置を見直すなど、収入増の要素もあり、大きく変動はしないのではないかと考えている。</p>
委員長	<p>項目番号 35-3 (下関市との連携)</p> <p>ユースカレッジは受講者数も多く、ほぼ全員が修了できているが、要因は。</p>
理事長	<p>始めは日程が飛び飛びで開催していたが、昨年度は3日連続の開催とした。結果、参加者も予定を立て易かったと思われる。申込み者数も多く、全員を受け入れた。</p>
委員長	<p>項目番号 35-2、35-3 (下関市との連携)</p>

	今年度、未来大学とユースカレッジは実施されていないようだが、理由は。
理事長	まちづくり協議会が発足して、市としてはこれまで市民大学の講座として行っていたものを独自に行いたいということがあり、連携事業としての下関未来大学は終了することとした。地域づくりに関しては、大学としても独自に講座を開いていくということで計画している。 下関ユースカレッジも市と連携して行ってきたが、本学と市内の高校との連携事業ということで、出前事業や、生徒たちを引き受けて本学で研究支援を行うというような形を新たに設けるということで、従来のような形のユースカレッジは開かないということになった。
委員	未来大学は市で計画してきたのか、大学か。
理事長	連携してやってきた。今後は、市のまちづくり推進部がまちづくりの実務的な研修を、大学はまちづくりの公開講座を実施するなど、役割分担をしていく。
委員	まちづくり協議会との連携についてだが、まちづくり協議会もはじまったばかりで手探りの状態だろう。大学としてどう関係していくつもりなのか。
理事長	地元である山の田のまちづくり協議会について言えば、青少年部会への参加を依頼されており、そこからはじめる。その他、吉見地区からは、人口減対策についてアドバイスしてほしいといった申し入れも受けている。
委員	産官学の連携でいえば、以前、商工会議所もプレミアム商品券の効果分析、小規模事業者の課題分析などをしてもらった。これからもそういった依頼をしていきたいと考えており、そういった面では地域貢献をしていると言える。 大学のある山の田は商店街組織の無い空白地域であり、誰かに頑張ってもらいたいとの地元の要望もある。山の田に所在する大学として、ここを活性化しモデル化できるのではないかと思う。
理事長	商店街の現状調査、提言活動をしている教員もいるので、何かできるのではないか。
委員長	下関市の魅力を教えるような講座はあるのか。
学部長	学生の8割は市外からなので、アカデミックリテラシーという授業の中で下関の歴史や文化について講義をしている。また、学友会主催で唐戸など現地に出ていく取組もしている。
事務局長	対外でいうと、市の企画課が市外の高校生に向けたパンフレットを作成したが、その中で市内5大学の学生が、下関市の魅力を語るという内容のものがある。

大項目

= 自己評価区分の妥当性について =

なし

= 特筆すべき事項について =

追加及び修正すべき事項なし

= 指摘事項について =

項目番号 29-1 (地域課題への取組)

大項目 国際交流に関する目標

- 中項目 1 学生の国際交流の推進に関する目標
- 中項目 2 国際交流体制の整備に関する目標
- 中項目 3 国際学术交流の強化に関する目標

= ヒアリング =

委員長	<p>項目番号 37-1 (留学生の派遣)</p> <p>留学等海外研修経験者数が昨年度は 71 人だが、2 割の学生が在学中に海外研修の経験をするという計画には、100 人程度は必要。これで自己評価とした理由は。</p>
学部長	<p>海外研修は、外国語短期研修、1 年の派遣研修、国際インターンシップがメインだが、そのほかの部分になるが、平成 27 年度については、旧カリキュラムで実施していた韓国に行く授業が無かったため、その分の約 30 人減少している。ただ、新カリキュラムで本年度から海外体験を含む授業がスタートしており、今年度以降は年間 100 人を確保できる見込みがたっており、また海外研修のメインとなる外国語短期研修等の人数が減少したということでもないことから、自己評価をとした。</p>
委員	<p>項目番号 37-3 (留学生の派遣)</p> <p>私費留学を希望する学生がいなかったとのことだが、理由は。</p>
理事長	<p>卒業が遅れるというのが最大の理由。</p>
委員	<p>単位互換制度が無いと解決しない。</p>
委員	<p>項目番号 38-2 (留学生の受け入れ)</p> <p>協定校からの短期日本語研修の打診について、困難と回答したとあるが、万難を排して受け入れるべきだったのではないか。</p>
学部長	<p>本学が試験中の期間であり、教室の確保が難しかったほか、宿泊施設の確保など、時期的な問題があった。</p>
委員	<p>せっかくの機会であり、今後はできるだけ対応をしてほしい。</p>
委員長	<p>項目番号 39-2 (国際交流体制の拡充)</p> <p>「国際交流会館で地域住民も参加できるイベントを開催した」とあるが、地域住民はどの程度参加されたのか。</p>
学長	<p>地域住民は 3 名。その他、学生が 36 名、教員 3 名、報道など。もう少し増やしたいとは考えている。</p>

委員	<p>項目番号 40-1 (国際交流基金の拡充)</p> <p>国際交流基金はいくらくらいあるのか。</p>
理事長	<p>基金は約 1,000 万円であり、後援会から 350 万円、同窓会から 70 万円、教育研究基金から 50 万円、その他が寄付となっている。</p>
委員	<p>留学支援をより手厚くするためには、基金を増やす努力をしないといけない。</p>
理事長	<p>本学の留学支援は悪くない水準ではあると思うが、より手厚くするためには、個人や企業からの寄付を増やすことが課題と考えている。</p>
委員長	<p>項目番号 41-2 (国際学术交流の強化)</p> <p>木浦大学校側の責任者が病気のため、共同研究ができなかったということだが、学生への影響は無いのか。また、今後の見込みはどうか。</p>
理事長	<p>学生が直接参加する形ではないので、影響は無い。先方は回復されており、これからは取りまとめの段階となっている。</p>

大項目

= 自己評価区分の妥当性について =

なし

= 特筆すべき事項について =

追加及び修正すべき事項なし

= 指摘事項について =

なし

大項目 教育に関する目標

- 中項目 1 質の高い入学者の確保に関する目標
- 中項目 2 学士課程教育の充実に関する目標
- 中項目 3 修士課程教育の充実に関する目標
- 中項目 4 学生支援の充実に関する目標

= ヒアリング =

委員	<p>項目番号 2-1 (質の高い学生の安定的確保)</p> <p>項目番号 4-2 (広報活動の強化、入試広報の充実)</p> <p>オープンキャンパス参加者数が伸びているが、志願者数の伸びと関係があるのか。</p>
学部長	<p>要因については精緻に分析していなければならないが、オープンキャンパスの参加者は、推薦入学希望者が多いため、志願者数の増加との関係はあまりないと考えられる。隔年現象、名古屋試験会場の新設、人文社会系の人気といったところが要因と思われる。</p>

委員	<p>項目番号 7-1 (大学院入試制度の見直しと広報の強化)</p> <p>定員 10 名を割る状況が続いているが、定員自体は妥当なのか。</p>
学長	<p>入学者数が 10 名の定員に達していないことについては危機感を持っている。経済問題も多様化し、ニーズはある。定員 10 名は維持しながら人材育成をしていきたい。</p> <p>また、学部生 2、3 名、留学生 5、6 名、社会人 2、3 名になるよう、バランスよく確保することが望ましいと考えている。</p> <p>なお、平成 28 年度に他の大学院に進学した学生が 7 名おり、意欲のある学生はいらぬ。(うち 2 名は市大では取得できない小学校教員免許取得のため)</p>
委員	<p>修士の学生は、人気のある先生に集まる傾向がある。修士を多く抱える教員には研究費 + などの優遇策はないのか。</p>
学長	<p>インセンティブというのは特には無い。</p>
理事長	<p>学部の受験生が多いのは、就職に強いというのが要因としてあるが、大学院については、就職は良くない方であり、今後は出口の方を考えなくてはならない。</p> <p>なお、多くの学生を引き受けると教育の質が保てるのか、本学としては、少人数でもきちんとした教育をしたいと考えており、多くの修士を抱えているからと云々の + は考えていない。</p>
委員長	<p>今後の入学者の増加策は。</p>
学長	<p>大学院でどういふことを学んでいくのか、情報量、PR が足りていないと思う。学問はこんなに面白いというのを見せることが大事であると考えている。</p>
学部長	<p>増やすというより、減らさないということをまず考えている。数のみでなく、質を保つことも大事であり、入試制度の改革などにも表れている。大きく広報するというよりは、丁寧に PR していくというほうにシフトしていく。</p>
委員	<p>項目番号 10-1 (外国語能力の養成)</p> <p>到達度別クラス編成について、学生のモチベーションは下がらなかったか。</p>
学部長	<p>単位を取りやすくしようと、わざとクラスのレベルを落とすような学生はほとんどいなかった。能力別に分けたほうが良いのか、クラス内に様々な能力の学生がいる中で、学力のある学生を見せることでやる気を引き出すことを狙う方が良いのかは考えていかなければならない。</p>
委員	<p>項目番号 15-2 (FD の実践による授業改善の推進)</p> <p>教職員による授業参観を実施したとのことだが、本音としては、教員は嫌がっているというようなことはないか。</p>
学部長	<p>本学は教員集団も小さく、お互いに日常的に授業の話などもする。そういう古くからの伝統と言えるものを持っており、そのようなことは無い。</p>

= 本日の審議終了 =

3 . 閉会のことば

~ 次回、大項目 についてのヒアリングの続きから実施

—閉会—